

2025年3月期 第3四半期決算概要

- 欧州経済減速の影響が建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業において継続。
売上高は為替影響もあり前年同期比で増収だが、営業利益は減益
- 欧州経済減速の影響および対応施策の実施による個別開示項目費用計上を踏まえ、利益予想を下方修正
- 早期の業績回復に向け、建築用ガラス事業においてドイツのフロート窯2基の生産停止、自動車用ガラス事業においてドイツの工場の生産体制見直しの他、代表執行役等の報酬の自主返上を実施
- グループ全体でのより一層のコスト削減等、あらゆる施策を実施し、2026年3月期の黒字回復に注力

1. 2025年3月期 第3四半期決算

- 第3四半期（10-12月期）の売上高は2,075億円（前年同期比+150億円、+7.8%）、営業利益は6億円（同△55億円、△90.5%）
- 累計の売上高は6,300億円（前年同期比+173億円、+2.8%）、営業利益は108億円（同△213億円、△66.3%）と、増収減益。売上高は為替影響もあり自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業で増収だが、営業利益は欧州の経済減速の影響を受け建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業で減益
- 個別開示項目は2024年10月10日公表のドイツ・グレートベックでのフロート窯の生産停止に伴う一時費用を含め、純額で25億円の費用（前年同期は9億円の収益）
- 金融費用（純額）は182億円と、前年の204億円から22億円改善。持分法による投資利益は37億円と前年と同水準。前年度はロシアのジョイント・ベンチャー売却に伴う一過性利益として計48億円を計上
- これにより当期損失は93億円（前年同期比△234億円、前年同期は141億円の当期利益）、純損失*は101億円（同△236億円、135億円の純利益）
- 自己資本比率は、純損失の計上により11.7%（前期末比△0.7pt）。フリー・キャッシュ・フローは、営業減益および運転資本増加により464億円のマイナス（前年同期比△341億円）。有利子負債は主にフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより5,654億円（前期末比+589億円）

<損益計算書および財務指標>

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2024年 3月期	2025年 3月期	差異	2024年 3月期	2025年 3月期	差異
売上高	1,925	2,075	150	6,127	6,300	173
営業利益	61	6	△ 55	321	108	△ 213
営業利益率	3.2%	0.3%	△ 2.9pt	5.2%	1.7%	△ 3.5pt
個別開示項目 (純額)	6	△ 25	△ 31	9	△ 25	△ 35
個別開示項目後営業利益 (△損失)	67	△ 19	△ 86	330	83	△ 247
金融費用 (純額)	△ 64	△ 56	7	△ 204	△ 182	22
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37	-	△ 37
持分法による投資損益	15	12	△ 3	37	37	0
持分法投資に関する その他の利益	△ 1	-	1	10	-	△ 10
税引前利益 (△損失)	17	△ 64	△ 81	211	△ 62	△ 273
当期利益 (△損失)	36	△ 59	△ 95	141	△ 93	△ 234
純利益 (△損失)*	37	△ 62	△ 99	135	△ 101	△ 236
EBITDA	170	130	△ 40	650	481	△ 169
フリー・キャッシュ・フロー	62	△ 178	△ 240	△ 124	△ 464	△ 341

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

(億円)	2024年 3月末	2024年 12月末	増減
総資産	10,076	10,308	232
親会社の所有者に帰属する持分	1,243	1,202	△ 41
自己資本比率	12.3%	11.7%	△ 0.7pt
有利子負債	5,065	5,654	589

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州を中心に販売数量減少、販売価格低下により、前年同期比で減収減益。ドイツのフロート窯 2 基の生産停止により固定費削減（2024 年 6 月に 1 基、2025 年 1 月に 1 基）。太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調継続。米国の既存フロートラインの転換工事が完了し、1 月に火入れ
自動車用ガラス事業	欧州での自動車生産減少、アジアと北米の一部取引先での生産停止の影響を受け想定より販売数量の回復が遅延したが、円安による影響もあり増収。営業利益は人件費等その他コストの上昇および資産稼働率低下の影響を受け減益。ドイツ・ヴィッテン工場で生産体制見直しを決定
高機能ガラス事業	多くの事業で堅調な需要が継続し増収。営業利益はその他コスト増加に伴い前年同期と同水準

(億円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比	
	10-12月期	累計	10-12月期	累計	10-12月期	累計
売上高						
建築用ガラス事業	816	2,745	942	2,741	126	△ 4
自動車用ガラス事業	1,007	3,059	1,016	3,189	9	131
高機能ガラス事業	98	296	115	362	17	65
その他	5	27	3	7	△ 2	△ 19
売上高合計	1,925	6,127	2,075	6,300	150	173
営業利益						
建築用ガラス事業	44	262	20	86	△ 24	△ 176
自動車用ガラス事業	30	93	△ 9	26	△ 39	△ 67
高機能ガラス事業	17	57	18	57	1	0
その他	△ 30	△ 91	△ 23	△ 62	7	30
営業利益合計	61	321	6	108	△ 55	△ 213

2. 2025年3月期 業績予想

- 欧州経済の減速の影響およびこれに対応する施策の実施による個別開示項目費用の計上を踏まえ、通期の営業利益、税引前利益、当期利益、純利益予想を下方修正
- エネルギーや原材料価格は安定的に推移するが、インフレ傾向を反映し人件費等その他コスト増加は継続
- 早期の業績回復に向け、建築用ガラス事業においてドイツのフロート窯 2 基の生産停止、自動車用ガラス事業においてドイツ・ヴィッテン工場の生産体制見直しの他、代表執行役等の報酬の自主返上等の施策を実施
- グループ全体でのさらなるコスト削減等、早期の利益改善に向けてあらゆる施策を推進し、通期業績予想の達成および 2026 年 3 月期の黒字回復に注力

<業績予想>

(億円)	2025年3月期 過期予想 (前回)	2025年3月期 過期予想 (今回)	増減	2024年3月期 過期実績 (参考)
売上高	8,500	8,500	-	8,325
営業利益	260	160	△ 100	359
個別開示項目（純額）	20	△ 70	△ 90	1
個別開示項目後営業利益	280	90	△ 190	360
金融費用（純額）	△ 270	△ 250	20	△ 282
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	-	37
持分法による投資利益	50	50	-	51
持分法投資に関する その他の利益	-	-	-	10
税引前利益（△損失）	60	△ 110	△ 170	176
当期利益（△損失）	10	△ 160	△ 170	109
純利益（△損失）*	0	△ 170	△ 170	106

*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

3. 中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2025年3月期（4-12月期） 実績
収益性 (P/L)	営業利益	640億円		108億円：主に欧州経済減速の影響
	営業利益率 (ROS)	7%	10%以上	1.7%：第2四半期から0.7pt低下
▼				
キャッシュ創出 (C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		△464億円：営業減益および運転資本増加によりフリー・キャッシュ・フローはマイナス
▼				
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,654億円：フリー・キャッシュ・フローのマイナスによる増加
	自己資本比率	15%		11.7%：前期末から0.7pt低下

4. 欧州の事業環境と施策

欧州の事業環境と施策		NSG GROUP
<p>欧州では、建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業ともに付加価値製品の需要は中長期的に拡大。コスト削減、付加価値製品の強化による脱コモディティ製品化により対応</p>		
<p>1. 欧州の事業環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 直近ではインフレ拡大、高金利の継続に伴う経済減速の影響を大きく受けて需要が減少 金利の低下が始まっており、それに伴う段階的な経済回復を期待 建築用ガラス事業では、エネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大 自動車用ガラス事業では、自動車生産台数の緩やかな改善に伴い需要が回復 		
<p>2. 施策～「2030 Vision : Shift the Phase」の「Business Development」に基づく脱コモディティ製品化</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築用ガラス事業では、アップストリーム（板硝子生産工程）の削減およびダウンストリーム（板硝子加工工程）の脱コモディティ製品強化 自動車用ガラス事業では、生産体制の見直し等によるフットプリントのさらなる適正化やオペレーションコストの削減による徹底的な収益性改善 		

欧州の事業環境と施策



3. 主な施策

(1) 建築用ガラス事業でのアップストリーム削減および自動車用ガラス事業でのコスト削減

事業	国	概要	公表日	実施時期	コスト削減効果		
					年間	2025年3月期	2026年3月期
建築用 ガラス	英国	フロート板ガラスと型板ガラスの溶融窯を共用化	2023年4月21日	2025年4月	約4億円	-	約3億円
	ドイツ	パイアハマー工場のフロート窯1基の生産停止	2024年3月19日	2024年6月	約20億円	約15億円	約20億円
	ドイツ	グレートベック工場のフロート窯1基の生産停止	2024年10月10日	2025年1月	約30億円	約5億円	約30億円
自動車用 ガラス	ドイツ	ヴィッテン工場の生産体制見直し	2025年1月24日	2025年6月～8月	約11億円	-	約5億円

(2) 建築用ガラス事業でのダウンストリームの脱コモディティ製品化の進捗状況

概要	国	実施時期	進捗状況
複層ガラス、トリプル複層ガラス	主にポーランド	実施中	年率5%増加を目指して計画通り進捗中
先進的なコーティング技術を活用した製品低放射（Low-E）ガラス等	英国、ポーランド	実施中	年率4%増加を目指して計画通り進捗中
大型ラミネート合わせガラス	ドイツ	2025年12月	計画通り進捗中

<お問い合わせ>

(報道関係等) 広報部 (お問合せページ) <https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us>